

Yuki Shimizu Artist Talk

清水 裕貴
アーティストトーク

千葉県出身で、小説家・写真家として活躍している清水裕貴さんのトークイベントを千葉市生涯学習センターで開催します。最新作『海は地下室に眠る』千葉・稲毛を舞台に描かれたこの小説の着想はどこから得たのでしょうか。清水さんが感じた在りし日の稲毛の海、千葉の蓮池花街はどんな景色だったのか。小説を書くこと、写真を撮ること、清水さんのライフワークについて。ナビゲーターは小説の主人公になぞらえて、千葉市美術館の現役学芸員が務めます。



「微睡み硝子」 清水裕貴

千葉市生涯学習センター2階ホール

12月7日(土) 14:00~15:30

対象：どなたでも
定員：150人(先着)
費用：無料

申込方法：必要事項を明記の上、メールか往復はがきでお申し込みください。

※メールでお申込みの場合、お申し込み後4日経っても返信がない場合はお問い合わせください。

■必要事項

- ①講座名「清水裕貴アーティストトーク」
 - ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号
- ※1通で複数人応募の場合、全員の氏名・年齢を明記してください。

■メール宛先 manabi.kouza@ccllf.jp

■はがき宛先 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7
千葉市生涯学習センター 学習推進グループ



詳細はこちらから

清水裕貴と一緒に

『海は地下室に眠る』の世界へ



主人公のひかりは千葉市美術館の学芸員。ひかりとひかりの祖母、2人の視点で描かれる現代の千葉市と戦時下の千葉蓮池。美しく、鮮やかに描写される稲毛の海。私たちの身近な街の現在と過去を舞台に紡がれる、土地の記憶の物語。

作品名：『海は地下室に眠る』

著者名：清水 裕貴

発売日：2023年1月30日（月）

発行元：(株)KADOKAWA

清水裕貴 Yuki Shimizu

写真家・小説家。2007年武蔵野美術大学映像学科卒業。土地の過去や伝説をリサーチしながら写真や物語を制作する。2011年1wallグランプリ受賞。2016年三木淳賞受賞。2017年頃から小説の執筆を始め、2018年、新潮社の女による女のためのR-18文学賞大賞受賞。『ここは夜の水のほとり』（新潮社・2019）、『花盛りの椅子』（集英社・2022）、『海は地下室に眠る』（KADOKAWA・2023）を刊行。主な個展はPGI「微睡眠硝子」（2022）、スタジオ35分/A'holic「よみがえりの川」（2023）、PURPLE「眠れば潮」（2023）など。千の葉芸術祭（2021）、千葉市美術館「とある美術館の夏休み」（2022）に参加。写真集『岸』（赤々舎・2023）を刊行。



■ 申込方法

必要事項を明記の上、メールか往復はがきでお申し込みください。

※メールでお申し込みの場合、お申し込み後4日経っても返信がない場合はお問い合わせください。

■ 必要事項

- ① 講座名「清水裕貴アーティストトーク」
- ② 郵便番号・住所
- ③ 氏名（ふりがな）
- ④ 年齢
- ⑤ 電話番号

※1通で複数人応募の場合、全員の氏名・年齢を明記してください。

■ メール宛先 manabi.kouza@ccllf.jp

■ はがき宛先 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-7-7

千葉市生涯学習センター 学習推進グループ